

令和3年地域運動部活動推進事業における成果報告書（静岡市）

① どうしたら関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制を構築できるか

（地域部活動、合同部活動（エリア制）を実施する体制を構築するにあたってのノウハウや工夫など）

➤ 部活動在り方協議会での協議(R3)

学校部活動の適正な運営の推進に向け設置した協議会において、文科省の方向性や今後考えられる課題等の抽出を行った。

➤ 部活動改革検討委員会と、市内プロジェクトチームの発足(R4)

従来の部活動在り方協議会を拡充し、地域部活動のあるべき姿、方策等について、地域スポーツや民間事業者の関係者、市の体育協会や文化協会、保護者代表など様々な立場の方を委員とする。さらに下部組織として教育局と観光交流文化局で組織するプロジェクトチームを立ち上げる。

➤ 関係団体へのヒアリング(R3,R4)

競技団体をはじめ、自治会、保険に係る事業者、保護者会等、委員以外へのヒアリングを年3回程度行い、関係者の意向なども十分把握した上で、検討委員会の協議を進められるよう配慮していく。

② どのような支援が拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか

（拠点校の取組や関係団体との協働等について、指導や助言するなど支援するにあたってのノウハウや工夫など）

➤ 地域部活動や合同部活動（エリア制）の目的を学校・家庭・地域等に幅広く周知すること

➤ 各種競技団体への周知や理解を求め、大会への参加規定を見直すこと。

➤ 運営団体とともに、指導者の数や質を確保すること。

③ どのようにして、それぞれの課題を克服していくのか

（指導者や運営団体の確保方策、保護者・自治体の費用負担の在り方の整理等にかかる知見や特に地域スポーツ活動の費用負担について保護者の理解を得るために必要なこと等）

➤ 関係団体への十分なヒアリングと、関係者へのアンケートなどをもとに、最上位の目標を「子どもたちが仲間とともにスポーツや文化の活動に親しみ楽しむ環境づくり～子どもたちのやってみたいに応える静岡市～」として、検討協議を進めていく。

④どうすれば改革の取組を円滑に他地域に普及していけるか

(休日の部活動の段階的な地域移行の促進を図ることを目的として、域内の他の学校や地域に普及させるための取組に関するノウハウや工夫)

- 定期的に県内の近隣市町と連絡を取り合い、情報共有を行っている。しかし、各地方団体との実態もちがうことから差異が生じることが考えられるため、国から明確な基本方針を示されることが望まれる。

⑤実践研究における活動実績や得られたデータ

(生徒、保護者、教員、地域指導者などの関係者からヒアリングやアンケート等を通じて把握した意識(生徒のニーズや満足度、教員の負担感、保護者が許容できる費用負担額など) 定性的な観点からのアウトプット)

別紙参照

⑥上記の他にも、国に対する提言といった形で記載することが考えられる。

- (・合同部活動の実施からどのように運動部活動の地域移行への取組に円滑につなげていけるか。
- ・運動部活動を地域に移行することにより、地域スポーツの振興の観点から、どのような効果が期待できるか。
- ・地域移行の達成時期について、いつを目標とすることが適当か。またその理由はなにか。等)

- 以下の点を明確にさせていただくと地域移行に向けて協議が進むと思われます。
 - ・部活動の位置づけを明確にする(例:学習指導要領から外し、社会教育として位置付ける等)
 - ・大会の在り方(例:中体連全国大会の教員の引率義務の撤廃。種目団体による参加資格の緩和。)
 - ・平日を含めての地域移行(休日だけの移行は、より複雑にさせている)
 - ・地域部活動における国からの補助金の有無
 - ・部活動指導員制度の見通し(地域移行を目指す中、継続していくのか)
- 本市における持続可能な部活動に向けて
部員減少と指導者不足を抱える本市の部活動改革において、合同部活動と地域部活動は両輪と考えている。部活動改革の第一歩として、市全体の部活動数の適正化を図り、学校単位から地域単位の活動とする意識改革を図るため「エリア制部活動(拠点校方式の合同部活)」を令和5年度より実施予定である。そのため、地域部活動とともに、合同部活動の推進に関する実践研究も行っており、県中体連をはじめ、各団体への周知し、理解をえている。

地域部活動アンケート結果

【調査期間】

令和4年1月20日(木)～2月3日(水)

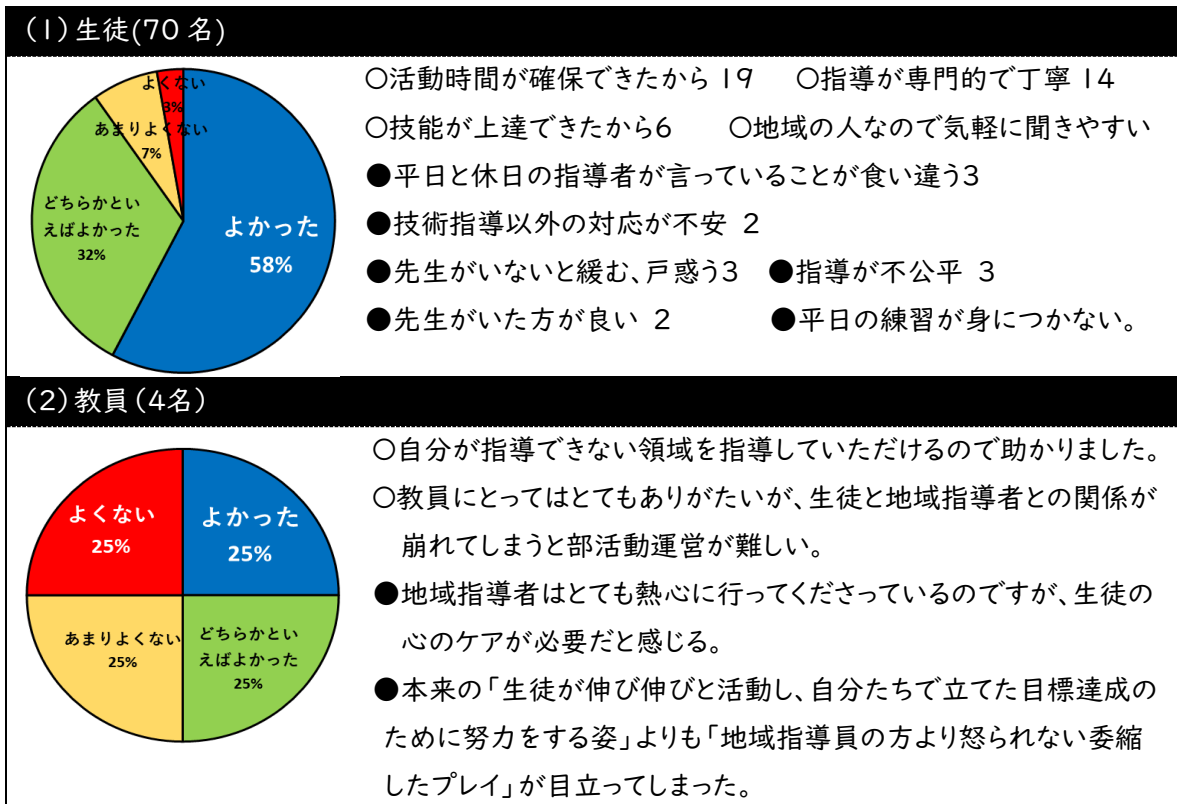
【調査の対象】

- (1)生徒を対象としたアンケート (70名 回収率 89%)
- (2)顧問教員を対象としたアンケート、管理職への聞き取り(4名 回収率100%)
- (3)保護者を対象としたアンケート(60名 回収率 76%)
- (4)指導員を対象としたアンケートと聞き取り(5名 回収率100%)

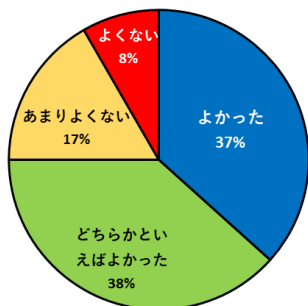
【地域部活動の総合的な評価】

質問 [休日の地域部活動の実施について総合的な評価をお願いします]

回答 [よかった／どちらかといえばよかった／あまりよくない／よくない]



(3) 保護者



- 技術習得が自信や意欲に繋がっている(多数)。
- 保護者も意識改革が必要だと感じます。周知をしてもらい、繋いでいけないといけないと思いました。
- 地域指導員が平日も指導できる方がいればその方が良いと思う。
- 教員の離任・着任に関係なく一定の指導を受けられることがいい。
- 平日の部活動時間が短いので、休日の地域部活動は、それを補う為にも必要。

○先生だけでなく大人から学ぶものが多くあったと思います。

- 基本的に休日の部活動にも顧問が必要。せめて休日に行われる大会には顧問が帯同するべきではないのか。不手際があった際、責任の所在は如何に。指導員の方には重責ではないのか。
- 熱心な指導に大変感謝しているが、思春期の多感な時期でもあり精神面のフォローや部活動内の雰囲気作り等、やはり教職員ではない年配の方だけでは難しいと思われる。
- 一部の親のやりたいようにやる部活になっていく可能性がある。
- 時折、先生に教育的指導をお願いしたいです。そして、指導員の立場をしっかりとっておかないと、子供達の甘えた態度などが助長され、事故に繋がってしまう。
- 平日は顧問の先生(忙しく顔が出せない)、休日は指導員、保護者ということで一貫性がない為、子どもの練習態度もやる気の差が大きく、マナーの悪さも目立ちました
- 子ども達への一貫した指導が出来ない。土日の部活は、技術的な指導をしてもらえが平日は教えられない先生なのでしてもらえず、ほとんど部活にも来られずほぼ自主練、基礎も身につかない。

(4) 指導員

- 生徒の甘えや弱さ向き合いながら、主体性を大事に活動しています。課題を決めて仲間同士、相互練習しています。
- 1年を4つの時期に分け取り組み内容を表示し、生徒や顧問に周知している。
- 常に電話やメールで顧問と連絡を取り合っています、また、保護者会ともメール等で伝えています
- 指導者1年目であり、生徒の人間関係がつかめなくて苦慮している。
- 女子の指導について生活面などは先生に任せている。
- 学校のことがわからないので、完全に外部(地域)にした方がやりやすいと思う。
- ▶平日は活動時間が確保できないと聞いている。その分、休日にできれば活動が充実する。
- ▶地域や種目の特性上、中学生に限定せずに小学生から大人までと一緒に活動できることが望ましい。中学生だけ部活として、ぶつ切りにするより地域の活動としてできればいい。